



# 一般財団法人 芹沢光治良記念文化財団 ニュース (6)

## 代表理事 勝呂 奏 “財団創立5年を前に”

本財団は、故人となった芹沢光治良の4女、岡玲子さんによって2019年12月に創設された。年度で数えるなら5年目を目前にし、今年は芹沢光治良の没後30年の節目に当たる。玲子さんが亡くなって2年、玲子さんと共に財団の設立前に芹沢の文学精神の継承のために尽くされた三女の芹沢文子さんが亡くなって8年になる。現在、玲子さんから財団の代表理事を引き継いで、微力ながらも責任を果たすべく務めているが、東中野での、また沼津での集まりに出ると、参加された方たちと一緒にお二人のいることが感じられてならない。それも眼鏡の奥に優しい眼差しを見せる父親に伴われて、にこやかな表情を見せているのである。

芹沢の名短篇「死者との対話」(1948年)は、〈死者は生きのこった人の記憶のなかにしか生存できないという。〉と書き出されている。そこでは戦争の記憶の風化が恐れられているのだろうが、この財団に連なる者は芹沢文学を、玲子さんのことを、文子さんのこと、決して忘れない。そのような思いを胸に、新しい年度の事業を準備し始めている。年に2回の講演会、その他に読書会を持ち、これまで通りに沼津市芹沢光治良記念館や中野区東図書館他への展示の協力を続ける予定で、この他に新たな魅力ある企画を加える考えもある。

これらの様々な事業は、財団の担当者の力だけでは成功を収めることはできない。多くの協力者と、会員の皆様の温かなご支援あつての賜物と考えている。財団の活動について、折々に財団ニュースやホームページでお知らせするので、改めて変わらないご理解とご支援をお願いしたい。

## 事務局より報告

### ■2022年度を振り返って

- ・5月 「財団ニュース(5)」発行
- ・6月 「芹沢光治良ノート(2)」作成と配布
- ・6月 「岡玲子一周忌記念朗読会」実施
- ・8月 財団主催 「巴里に死す」読書会」実施
- ・10月 中野東図書館主催 「代表理事 勝呂奏 講演会」
- ・12月 財団主催 「剣持直樹 講演会」  
「芹沢光治良の欧州体験について」

“紅梅に  
雪つもりて  
喜寿の前 “

(一九七四年春 光治良)

## (1)財団主催「講演会」令和4年12月17日 紹介

- 演題：「芹沢光治良の欧州体験 - “孤絶・離愁・巴里に死す” について-」  
(沼津市芹沢光治良記念館企画展)
- 講師： 剣持直樹 (芹沢光治良記念館副主任)
- 内容

講師の剣持様は、平成21年から芹沢光治良記念館に勤務され、芹沢光治良に関する多くの企画展を発表しています。

今回、同館で開催されている企画展の解説と、芹沢光治良のフランス留学時期に関連した「孤絶」などの作品を紐とぎながらお話しいただきました。

コロナ禍での開催となりましたが、参加者を30名を迎え、充実した講演内容と、参加者からの多数の質問もありました。又、参加者の皆様と97年前(大正14年)に、タイムスリップしたかのように光治良先生に思いを馳せた楽しい講演会でした。



“光治良先生・文子さん・玲子さん”もご参加です。



講師「剣持直樹」

## (2)『中野区制90周年記念行事 講演会』令和4年10月15日 紹介

- 演題：『中野区ゆかりの作家 芹沢光治良』
- 講師： 勝呂 奏 代表理事
- 感想

芹沢光治良作品を通して、その時代の光治良先生の生き方を勝呂先生の視点で分かり易く丁寧にお話しされました。また、地元中野区の方が多数参加され、鋭い質問もあり、皆さん満足された講演会でした。

(当日の配布資料より抜粋)

### ①「文学者の運命」(1973年)

〈人間が、病気や身分や因習から解放されて、人間らしく幸福を得ることが、言葉なき神の意思である。私は、素朴に、それに応える仕事をしたいと願った。〉

### ②「ブルジョア」(1939年)

### ③「昼寝している人」「椅子を探す」「橋の手前」(1933年)

### ④「グレシャムの法則」(1943年)

### ⑤「巴里に死す」(1943年)

### ⑥「人間の運命」(1962-1968)

### ⑦「神シリーズ全8巻」(1986-1993年)

### ⑧「芹沢文子談話 “父・芹沢光治良の晩年”」(1993年「波」)

(注)“当日の配布資料”は財団HPに掲載しています。



### (3)最近の財団HP 紹介 (URL : <http://serizawa-kojiro.com>)

#### ●芹沢文学ガイド 『芹沢光治良映像紹介 (YouTube) 』

##### ①「いつか見た街 作家・芹沢光治良(1998年)」 (15分)(中野区HPより)

・数多くの作品を描き続けた東中野の紹介と、懐かしい芹沢文子さん、岡玲子さんの元気なお姿やお父様の思い出を語っている貴重な映像に出会えますよ。



##### ②「芹沢光治良ゆかりの人・文学—その魅力を探る(2016年)」(20分) (沼津市HPより)

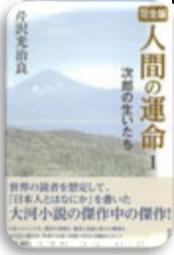
・光治良先生の故郷“我入道”、少年時代からパリ留学など映像で観ることができます。又、女優の前田美波里さん(光治良先生の妹智恵さんのお孫)が、「“巴里に死す”の朗読をやって見たい夢もあります。」とのコメント映像もあります。実現できれば素晴らしいですね。



#### ●文学ガイドとライブラリー (朗読)

##### 「完全版 人間の運命 1巻 “次郎の生い立ち”」第1章～第18章 朗読掲載。

・加藤史也さんが一年半(2021/4～2022/9)かけて朗読してくださいました。本を読むことに少し疲れた時、この朗読をお聞きください。森次郎の世界に心を馳せることができるかもしれません。お楽しみください……。



## 芹沢文学のまわりで シリーズ (1)

野見山恵美子 光治良記念会(学芸・作品・資料)担当

### ■朗読会【芹沢光治良に触れる】

1月下旬、【NPO法人らふと】主催<くつろぎの朗読会>にて、光治良作品が取り上げられました。会場は東京中野区にある、オルタナティブスペースRAFT。

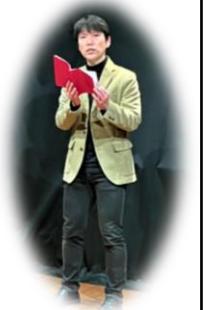
宮沢賢治・太宰治・芥川龍之介・井上ひさし等の朗読会に続き、この度は「東中野ゆかりの作家」(中野区公益活動助成事業)としての企画で、短編小説『死者との対話』と随筆『第二の故郷』。そして、それらに加えて当日のサプライズで『私の憲法観』が朗読されました。改めて、光治良先生の平和を希求する姿勢が、これら三作品の連関からもくっきりと明示され、心に強く刻まれました。

### ■はじめに、難波善明さんによる『死者との対話』

黒布に覆われた四角い空間に照明ライト。本を片手に、その正面中央に立ちます。劇団を主宰する難波さん。これから一人芝居が始まるような雰囲気の中、「死者は生きのこった人の記憶のなかにしか……。」というモノローグ。

そしてゆっくりと顔を上げ、「和田稔君」と、はっきりとした声で呼びかけ、それから「僕(先生)」の回想が続いていきます。視線や表情、身振り。

言葉の発声リズムやスピードの緩急。声のトーンや抑揚。どれもが穏やかなでわずかな変化でありながら、それゆえに豊かな表現力で、作家の心情が開示されていきます。難波さんの作品読解・理解が、声と体(直立しているのですが)の表現として伝わってきました。容姿はもちろん異なるのですが、まるで光治良先生が語り、訴えかけているようにも感じられる場面もたびたびでした。目の前に実在するのではない、しかし作者の心にはくっきりと在る「君(和田君)」が私にも想起され、まさしく「対話」:ダイアローグなのだなあと感じました。



## ■二作目は大前洋子さんによる、エッセイ『第二の故郷』

俳優でアナウンスやナレーションなど、声の仕事もされる大前さん。

1951年ローザンヌでのペンクラブ世界大会に参加した折のエッセイです。

第二の故郷とは？ここでは、スイスのことです。では、この当時の光治良先生にとっての第一の故郷は？パリ・フランスでしょうね。大前さんの明るく澄んだ声が空間に明快に広がります。優しい笑顔で朗読する様子が、エッセイということもあり、二回目のスイスの旅を喜び、楽しむ、光治良先生のはずむような心持と重なるようにも思われ、こちらも快活に作品の展開に意識を傾けました。光治良先生のいきいきとした息づかいや話し方が彷彿され、私も何か思いのエネルギーを届けてもらったようにも感じ、とても嬉しく聴かせていただきました。

目と耳で直接体験する、まさにLIVEで鑑賞体験する文学作品。それは「朗読」であり、「演劇」である。演者と観客が同じ一つの空間の中で、作者の光治良先生の思いを、訴えを、願いを共有する、心豊かな「場」を体験してきました。

朗報：今後も芹沢作品を取り上げて下さるそうです。



## 『今後の財団の行事予定』

①没後30年 光治良忌（主催 沼津芹沢光治良文学愛好会）

・日時：3月11日（土） ・場所：沼津市市営墓地

②第2回「巴里に死す」読書会 ・4月予定 ・場所：サロン・マグノリア

③『光治良ノート(3)「孤絶」』発行5月予定

④（仮称）芹沢光治良誕生日 岡玲子三回忌記念

“芹沢光治良・文子・玲子を語る会” ・6月予定 ・場所：サロン・マグノリア

⑤財団ニュース(7) 7月発行予定

⑥財団主催「講演会」 ・11月予定 ・場所：サロン・マグノリア

※詳細については、随時、財団HPに掲載します。ご都合がつけばご参加ください。

### ■会員の皆様へのお願いです。

お知り合いの方にも会員登録をお勧めください。（現在登録会員167名）  
会費無料です。財団ホームページより登録できます。

## 『編集後記』

コロナ禍でのさまざまな制限や配慮をしながら、財団活動をしてまいりました。

令和4年(2022年)は、芹沢文学の良さをお伝えする「芹沢光治良ノート(2)「巴里に死す」」を会員の皆様や関係部署へ発信することができました。どれだけ皆様の心に届いたか心もとないのですが…。又、15名(会員の方、芹沢文学ファン)の参加で、「巴里に死す」の読書会が和やかに行われ、皆様のそれぞれの思いのたけをお話しくださいました。今年も、会員同士の交流の場として、小さな読書会を計画していきたいと思っております。よろしくお祈りいたします。もう一点嬉しい報告があります。岡山県在住の財団会員の方が「岡山 芹沢文学 読書会」を立ち上げていただきました。2023/2/19に第一回目の読書会(“神の微笑”)が開始されるそうです。

会員の皆様にまことに勝手なお願いですが、皆様の県で岡山県の会員の方のように、小さな“芹沢文学 読書会”を立ち上げていただきたいお願いです。財団としても、できることはぜひ協力させていただきます。どうぞ宜しくお願いいたします。

発行： 一般財団法人 芹沢光治良記念文化財団  
〒164-0003 東京都中野区東中野5-8-3  
事務局 池田 三省 メール：[serizawa.52@nifty.com](mailto:serizawa.52@nifty.com)  
財団ホームページ URL：<http://serizawa-kojiro.com>